



就任挨拶

理事長 児嶋 政明

みなさま、こんにちは。このたび理事長に選任された児嶋政明です。

「いちいの会」は、障害児をもつ親たちが、みずから発起人となって「障害をもつ子供たちを安心して預けられる施設を作りたい」との思いで設立されました。社会福祉法人としての認可を受けてから15年、最初の施設である「くすのき苑」がスタートして14年になります。この間理事長をつとめられた桐山さんと西脇さんの多大なご尽力に対し心から厚くお礼申し上げます。なお、前理事長の西脇さんは、大変残念なことです。去る7月6日に亡くなられました。ご逝去を悼むとともに、ご冥福をお祈りいたします。

くすのき苑はすぐに定員一杯になりました。その後、利用者や地域のご要望に応じて、中核地域支援センター、グループホーム・ケアホーム、通所施設などつぎつぎと施設を拡充してきましたが、いまだに多数の希望者のみなさまが待機され、当

法人に対して高い期待を寄せられています。これは、当法人の役職員のみなさまが献身的な努力をして運営してきたことに対する評価の現れと思います。また、保護者のみなさまをはじめ、当法人に関わる多くのみなさまのご理解とご協力を得て、なんとかここまで来ることができたと思います。

いちいの会の長所は「明るく、のびのびとして、自由にものが言える」ところです。この長所を生かし「利用者第一の充実したサービス」と「地域の期待への対応」のさらなるレベルアップを目指して進んでまいりましょう。

今後とも、みなさまのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



故 前理事長 西脇 修司さんを偲んで

私達は止まらない

社会福祉法人 いちいの会 総合施設長 相馬 伸男

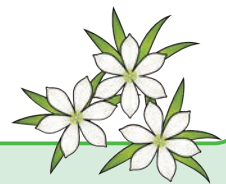
前理事長の西脇さんが闘病生活の末、7月早々に逝去された。がんと診断されて2年のあつという間の出来事であった。「親亡き後の安心を」との施設建設に向けた西脇さんの情熱・理念を私達はどれほど形にすることが出来ているだろうか。理事長として何時もにこやかに私達の前に立ち、分け隔てなく言葉をかけてくれたことに、私達はどれほど気持ちを穏やかにすることが出来ただろうか。感謝である。

「人はいつもそこに居留まる」ことは出来ない。病気であれ、異動であれ、転居であれ、私達は止まることのない時間の流れの中で生きている。目の前にいる障害を持つ方も、支援する私達も、そしてその家族らも同じ時間世界に生きている。私達がそうであるように、この目の前にいる方々も等しく、生きている時間を意義あるもの、価値あるもの、人に役立つものとして生きたい。西脇さんはそのことを私達に教え残そうとしてくれた。今、法人は西脇さんの残してくれた力を借りて、これから生きるであろう子供とその家族らの時間の流れに備えるための一歩を踏み出す。

私達は決して止まらない。

それは西脇さんの願いであり、西脇さんが努力された時間の後押しがあるのだから。

感謝合掌



中核地域生活支援センター・のだネット

地域総合コーディネーター 金城 和子

去る7月6日のお昼前、私はご自宅にお見舞いに伺い、お声をかけさせていただきました。その夜のこと、顔色も良かった西脇様の訃報が届き大変驚きました。

御自宅で介護をされていた奥様の「病院に入院させようかしら…?」と憔悴しきったお顔に、言葉もありませんでした。お心残りのことがたくさんおありでしょう…。改めまして、心よりご冥福をお祈り申し上げます。安らかにお眠りください。また、法人に対しましてのご高配に厚く御礼申し上げます。

私が平成12年に開所した「くすのき苑」に入職した折、大変心に残っておりますのは「この施設は12人の親御さんが10数年かかって法人を立ち上げ、我が子を入所させるために設立された施設」とのお話でした。私はその思いを重く受け止め、親に安心して預けていただける施設にしなければ…と思ったものです。親として惜しめない愛情の表現は「何があっても我が子を守る」。守るために意を決して他人に預けてくださった。我が子より先に逝く親に出来ること、それが施設だったのですね…。我が子を語る時の西脇様は「Yはネー…」といつも笑顔でした。2人で出かけた話を嬉しそうにされていました。理事長である前にYさんの「お父さん」でした。

告別式の日、Yさんはお父さんの遺影をしっかりと胸に抱いておられました。たくさんのお思い出が、これからのYさんの心の支えになって行く。私達はどれだけの思い出を入所者と共に作って行けるのでしょうか…? 多くの親御さんのお気持ちを今さらながら、胸に深く刻んでおります。

ワークショップくすのき

施設長 清本 健二郎

西脇理事長は就任されてから「理事長の西脇さんと呼んでほしい」と言われており、何度か「西脇理事長」と声をかけた時には「西脇さんだよ」と笑顔で訂正して頂いたので、恐縮ではありますが「西脇さん」と呼ばせていただきます。

西脇さんは非常に人当たりが柔らかく、進んで職員や利用者の方々に声をかけていただけていました。利用者の方でも「西脇さん」の名前を覚えている方は多く居たと思います。職員へは法人全体の行事である新年会、忘年会、暑気払い、歓送迎会と必ず出席していただき、職員に声をかけていただけていました。西脇さんのお言葉で一番印象に残っていることは「良いと思った事は何でも言い合う」「皆で知恵を出し合い、良く議論して決める」でした。この言葉には西脇さんのお考えが表れており、「人間は全て平等であり、平等に扱われるべきものである。」と言われていました。「清本さんはどう思うかね」と声を掛けていただいた時の優しい笑顔を思い出されます。

いちいの会の法人が設立される10数年前から入所施設を立ち上げる活動の中心の一人としてご尽力され、理事長就任の4年間を全力で法人運営にご尽力された多大な功績に改めて感謝を申し上げます。西脇さんに接し教えを得た当法人の職員の中にはいつまでもその思いは生き続けることでしょう。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

西脇 修司さんの足跡



1991年 湯島親の会発足
東京・湯島の畑中こども研究所に子供を通わせていた親の集まり
全国各地の施設見学を実施、用地探しを始める

1994年 筑波の里施設づくり準備委員会
筑波での現地調査、話し合い、折衝を繰り返すが、認可断念し1996年活動を終了

1996年 いちいの会発足、千葉県での施設づくりを目指す
土地の決定、土地売買契約締結、千葉県へ施設建設協議書提出・受理

1999年 社会福祉法人いちいの会設立認可
地元への説明、反対、説得を繰り返し協定書締結にこぎつける
11月地鎮祭、建設工事開始

2000年 8月くすのき苑竣工式
10月1日開所

2010年 4月 社会福祉法人いちいの会理事長就任

支援課長 大谷 篤司

7月6日、いちいの会理事長でありました西脇修司様が逝去されました。最後まで諦めずに病氣と闘い続けていましたが、治療の甲斐なく天国へと旅立たれました。私は、くすのき苑開所時から西脇さんにはお世話になりました。西脇さんは、職員の忘年会や暑気払いには必ず参加していただき、皆に声をかけていただきました。法人の立ち上げからご尽力をされた方なので、くすのき苑が出来るまでの様々な苦労した話や仕事の話、ゴルフの話など、色々な話をしたことを思い出します。そういえば、1度だけですが、ゴルフをご一緒したこともありました。そういった機会に、いろいろな話が出来る事も私達にとって、嬉しいことでした。7月8日に通夜、9日に告別式がとり行われました。法人関係、会社関係、大学時代のご学友等、たくさんの方に参列して頂きました。急なことにもかかわらず、これだけ沢山の方が参列して頂けたのも、西脇さんのお人柄、偉大さをあらためて感じました。葬儀の中で、ご住職が戒名の説明をしていました「真厚修楠信士」。戒名の中に「楠(くすのき)」という字が入っていました。改めて西脇さんとご家族のくすのき苑への想いを受け取りました。天国にいる西脇さんに恥じることのないよう、この「くすのき苑」を「いちいの会」を、盛り立てていかななくてはならないと強く感じました。※西脇さんは、「西脇理事長」ではなく「理事長の西脇さん」と呼んで欲しいとおっしゃっていたので、「西脇さん」と書かせていただきました。

第2支援係長 金 隆史

「笑顔」私の西脇さんの印象はまさにこの言葉です。私がくすのき苑に入職し、10年が経ちましたが、いつからか「金ちゃん」と呼ばれるようになりました。また、仕事についてだけでなく、私生活面でもいろいろと気にかけていただき、よく「結婚はまだ？」と声をかけていただきました。私にとり、「理事長」だけではない存在の方でした。以前、「湯島の会」についてお話を伺う機会がありました。くすのき苑の設立に際し、どれだけ尽力をつくしてきたか、その歴史を知ることが出来ました。その話を笑いながらしてくださった姿は忘れられません。「未だ実感がわかない」のが正直なところですが、西脇さんが常に見せてくれた「笑顔」を私達も大切にしていきたいと思っています。

支援係長 戸辺 泰介

未だに実感がありませんが、もうお会いできない事を考えると、本当に寂しい気持ちでいっぱいになります。もう十数年前になるでしょうか、入職もなく、ご家族との対応にも慣れていなかった私に対し「とべちゃん、とべちゃん」と大変気さくに接していただいたのが、つい昨日の事のように思い出されます。「私があまり構えてしまわないように」、というご配慮だったと思いますが、そういったお気遣いが、とても有り難く、助けられました。ご子息を預けている一人の保護者として、職員、法人に物申したい事は沢山お持ちであったと思いますが、ぐっと堪えて、辛抱強く私達の成長を待っていただいていた、そうした印象が強くなります。私達は果たしてどれだけ、「西脇さんの法人に対する想いや理想に応えられてきたのか」、安心して後を任せられる施設としてなり得ていたのか、自問自答を続けつつ、支援に邁進していきたいと考えています。

第1支援係長 猪野 恭子

前理事長の西脇さんとは、私が2寮配属となった頃からお話をさせていただく機会も増えました。いつもニコニコと笑顔で察に入ってくる姿がとても印象的でした。法人の立ち上げにご尽力され、当時の状況や困難について、私たち職員にもわかりやすく教えてくださいました。西脇さん始め、親御さんの思いを知ると同時に、「私達はこの思いを忘れずに、ここで仕事をしていかなければ。」と改めて感じたこと、今後も忘れずにいたいと思います。

昨年夏に育児休暇から復帰し、最初に西脇さんにお会いした時、「おっ!戻ってきたねえ。待ってたよ。」と、目を細めていつもの笑顔で声をかけてくださったこと、今もよく覚えています。

いつも素敵な笑顔で接してくださった西脇さんに恥じぬよう、今後もいちいの会の一職員として、笑顔を忘れず頑張っていきます。ご冥福をお祈りいたします。

社会福祉法人いちいの会 家族会職員法人全体会 研修会・懇親会

社会福祉法人 いちいの会 家族会 会長 鈴木 良造

庭の片隅に咲き誇る「のうぜんかずら」の鮮やかな色合いが心をなごませてくれる。サークル活動も10年余りつつがこの経験を生かしてこの花の形と色彩をなんとか描きたいものだと思い、二ヶ月かかったがキャンパスの中の「のうぜんかずら」は自分でも満足したものに仕上がったと思う。何かの機会に目にとめて戴ければ幸いである。

今年度の総会で会長職を務める事になり手始めに用水路の土手に芝桜600株の苗を植えることが出来た。然し、環境整備月二回では周りの雑草が強いため植えたばかりの芝桜が息苦しいようだ。多くの会員の手でいっきに刈り取らないと芝桜が駄目になる恐れがある。来年の春には満開のピンク色で染めたいものだ。ハンディを持つ子の親として家族として利用者が豊かに素晴らしい環境のもとで安心・安全に暮らしが出来るよう願わずにはいられない。

6月21日恒例の家族会職員合同研修会がザ・クレストホテル柏で開催された。今年のテーマは『法人として出来る事・期待すること～現在と生活の場を考える～』壇上に上がった二名のお母さん達は緊張することも無く堂々たる発表、我が子が産声をあげてから今日まで激しい苦悩とのたたかいを語り真剣そのものだった。信じがたい言葉にうーんとうなるものがあった。父親と母親の観点の違いはあるにせよ参加者は自分の子育て



と照らし合わせながら同じ障害をもつ子の親として理解できることなど、目には見えない多くのことを学んだ気がする。午後の懇親会は大盛況だった。私も指名されるままにマイクを握ったが次から次へとプロ級の職員が登場し会場は素晴らしい歌声に大きな拍手が舞い上がった。



最後に、長年社会福祉法人いちいの会・法人理事長 西脇修司様が26年7月6日逝去されました。法人立上げからくすのき苑家族会まで幅広く見守って戴き感謝を申し上げますと共に心よりご冥福をお祈り申し上げます。

研修会・懇親会に参加して

主任生活支援員 国分 雪江

当日は、家族会39名・職員19名の59名の方が参加しました。パネルディスカッションでは「法人として出来ること・期待すること」をテーマとして家族会代表の2名のお母様から話を聞くことが出来ました。成育歴から生活歴など現在に至るまでの話を聞き、周囲の方々ととのやり取りなどの内容に驚かされることや、苦労されてきたことも多く大変さを知りました。そして、そんな日々の中でも家族の絆を感じ涙ぐんでしまいました。また、懇親会ではご自宅での楽しいエピソード、帰省や帰苑での短い時間ではじっくりと話す事の出来ない相談や要望などを、聞くことができ私達職員に対する期待も感じ、大変貴重な時間でした。次回の開催では今回以上にたくさんの保護者の方が参加でき、日頃話せない色々な話が聞けることを期待したいです。



職員日記

「ラーメン」

支援員 沼田 浩史

月日が経つのは早いもので、くすのき苑にきて5年目に入りました。利用者の方と一緒に楽しくすることが楽しくて、日々いろいろな発見もあり楽しく仕事できています。そんな私ですが、高校2年生の息子と中学2年生の娘の父親でもあります。反抗期真っ盛りの子供たちであり、何か家族そろって楽しめるものがないかなという考えたところ「ラーメン」にたどり着きました。食べ盛りでもある子供らにとって、食べ物の誘惑には勝てない様で、今年に入って子供らの休みと合う日は、家族そろって月1回ラーメンを食べに行っています。子供らに調べさせて、子供らが気になったラーメンのお店に行っています。息子はとんこつラーメン、娘は味噌ラーメンが好きなので交互に食べています。ラーメンを食べ終え、自宅に帰る車中では、学校生活のことや友達の話や悩んでいる事などが聞けて、会話が不思議と弾みます。ただ、問題が一つありまして、私の体重が増えてしまう、いや確実に増えているのです。特にお腹まわりが。この問題は自分との闘いなので、自己解決いたします。

家族会・職員合同一泊研修旅行

生活支援員 山田 宗成



7月18日から一泊で家族会職員合同視察研修会で、「豊岡光生園」と「たびだちの村」を見学に行きました。他の施設を見学させて頂くと、毎回の事ですすが刺激を受け勉強になります。両施設とも大規模修繕を終えたばかりの綺麗で真新しい建物。生活空間は利用者の方が安全で暮らしやすいアイデアが至る所に工夫されていて、家族会の方々と一緒に「へー！」「ほー！」と驚きと感心の声の連続でした。

また、鳥居先生のお話「ぼくらの流儀 ぼくらのりゆう」では、私たち支援者にとって、最も大切な事である「相手の気持ち」を改めて考える事ができました。私達は普段支援者の都合で動いてしまっていないか、相手が本当に望んでいる事ができているか、自問自答しながら鳥居先生のお話を聞かせて頂き、日々の支援を振り返る貴重な時間を過ごさせていただきました。

夜の懇親会では、くすのき苑の現状や未来の話から、プライベートな話まで保護者の方々と色々なお話ができました。「くすのき苑もこうした方がいいね」、「あそこはこうしたらどうだろう」家族会の皆様が提言してくださる言葉に、家族会と職員が一緒になってくすのき苑の未来を考え、とても頼もしく心強い気持ちになりました。私は今回初めて家族会の行事に参加させていただきましたが、ご家族の皆様パワーと熱い情熱をたくさん注入してもらえ、若干圧倒されながらも非常に楽しく有意義な時間を過ごす事ができました。

最後に今回見学させて頂いた両施設の職員と利用者の皆さん、温かく迎え入れて頂き本当にありがとうございます。皆さんの元気な「こんにちわ！」の挨拶、とても気持ち良く、清々しい気持ちになりました。ここでも挨拶の重要性を改めて確認。初心に戻り、色々と大切な事を再認識させて頂いた研修でした。



旅行いろいろ



4/17～18 一泊旅行(那須)
自然と動物に囲まれた2日間。色々な
パワーを注入してもらいました。



5/19 日帰り旅行(葛西臨海公園)
沢山の魚と美味しいランチ、一日だけだけ
ど大満足な時間でした。



5/26～27 一泊旅行(鴨川)

沢山のショーに利用者の皆さん、大はしゃぎ!!野田には海がないので、海を思う存分満喫。



6/9～10 一泊旅行(横浜方面)

カップヌードルミュージアムに八景島シーパラダイス、どちらもくすのき苑にとって初めてでした。



行事いろいろ



「流しそうめん大会」

生活支援員 渋谷 晴香

皆さんは流しそうめんの経験がありますか？私はくすのき苑で、人生初の流しそうめんを体験しました。なんと土台は本格的な竹！課長お手製です！

数年前は流れきったそうめんをザルから取って食べていたそうで、実施は難しいのでは？との声もありました。しかし蓋を開ければひよひよいすくっていく利用者さん。職員の不安はそうめんと共に流れていき、いつの間にか利用者と一緒に楽しんでいました。

「水鉄砲・スイカ割り大会」

主任作業指導員 水田 秀人

夏到来!!毎年恒例のピリブ班名物“水鉄砲・スイカ割り”を夏の訪れとともに行いました。

お馴染みとあって、利用者の皆さんは各々に好きな水鉄砲を手に取り、合図とともに水の掛け合いスタート!!利用者・職員一緒になって、水と笑いで溢れる夏を感じる時間でした。

同時に、スイカ割りも実施。皆さんスイカは大好き。早く食べたくて、何度も叩きますが、なかなか割れず。

24名全員が力を出し合い、やっと割れた時には皆さん腹ペコ。美味しさと達成感で皆とっても満足そうでした。

私の夏はこの2つを行わないと始まりません。利用者さんも同じような考えかな、と思っています。



行事予定・販売会予定



9月	1泊旅行 家族会環境整備	イオンタウン販売会
10月	1泊旅行、日帰り旅行 家族会環境整備	イオンタウン販売会 関宿南部公民館まつり
11月	2(日)くすのき祭 理事会、バレー県大会	野田特フェスタ
12月	1泊旅行、日帰り旅行、クリスマス会 冬季帰省日(12/27~1/4)	イオンタウン販売会 支援スタッフ部会販売会

編集後記

今号より担当します 水田秀人 です。皆様に読みやすく楽しい広報誌を作成いたします。色々なご意見をお聞かせ願えればと思いますので、今後ともよろしく願います。(水田)

今年度から広報委員となりました中山です。キーボードを何回も打ち間違えては消し、打ち間違えては消しを繰り返すアナログ人間ですが、一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしく願います。(中山)

社会福祉法人いちいの会

〒270-0222

千葉県野田市木間ヶ瀬3121

E-mail:kusunokien@nifty.com

URL:<http://homepage3.nifty.com/kusunoki/>

TEL:04-7120-6667

FAX:04-7120-6668

編集委員 水田 秀人
中山 明日美

